

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像
多様性を認め合い自立的・主体的に行動できる子

R7年度 重点目標
さらに、美しい学校にしよう ～5つの「き」ができる子を育む～
○聴く 人の話を最後まで聴く子 ○本気 何事も本気で行う子 ○優気 友だちや仲間に対して優しい気持ちで接する子 ○雰囲気 誰から見ても雰囲気をつくる(感じる)子 ○正直 正直な心もち正直に話す子

確かな学びの現状
・昨年度、算数科に関するアンケートを4～6年生を対象に実施した。『①算数は好きですか』という項目では、肯定評価が60%であり、期待して80%を大きく下回る結果が見られた。しかし、『問題の意味が分からない』『計算が苦手』『楽しいと感じたことがない』など、児童の素直な意見を聞くことができ、困り感や課題が見つかった。学びを自らにとって必要感のあるものとして捉え、主体的に学んでいく児童を育てていきたい。
・ICT機器を活用することにより、児童・教員共に表現の多様性が生まれ、授業における幅が広がっている。しかし、ICTを活用することが主目的となってしまう場面も少なからず見られるので、学びを深めるための一助となる位置づけを大切にしたい。
・「5つの学習規律」を児童と共に意識することで、各学級の学ぶ雰囲気が増え、学習意欲が高まっているので継続して取り組んでいきたい。
豊かな心・健やかな体の現状
・昨年度の学校教育アンケートにおいて「自分のよいところについて考えようとしている」の項目での肯定評価が76%と、8割を下回っており、自己肯定感の低い傾向がみられる。
・昨年度の学校教育アンケートにおいて「自分は学校へ行くのが楽しい」の項目では、86%の児童が肯定的な回答をしている。さまざまな行事が復活して学校で楽しく過ごす時間が増えたことも関係していると考えられるので、さらに行事等の工夫をしていきたい。
・ほとんどの児童が挨拶を返すことができる。また、相手の名前を呼んでから挨拶をしたり、挨拶の後に一言つけ足したりできる児童も増えてきている。自分から進んであいさつができる児童も増えているので、あいさつ運動などの取り組みもしていきたい。
・児童の体力はわずかに上昇傾向にある。体育の授業やその他の時間でもさらに体力の向上がはかれるようすすめていきたい。

Table with 10 columns: 大項目, 中項目, 具体目標, 具体的な取組, 判断基準, 評価方法, 評価時期, 進捗確認, 達成状況(年度末), 自己評価, 学校関係者評価. Rows include '確かな学び', '豊かな心・健やかな体', and '(地域協働)'.

校長より(年度末)
今年度を振り返ると、昨年度よりも良かった点と課題の残った点と2極化したように感じる。まず、よかった点は、校内研修で、「導入に熱量を」ということで全学年取り組み、成果もあつたことはよかったと思う。しかし、来年度は、学びのコンパスで、こどもたち自身が学びを進めていくことにチャレンジしようとなった。また、黙々清掃は、だまってるよりも、必要なことは話す。ただし、声の大きさに気をつけるということも職員全員で共通理解を図った。挨拶は、だんだん声小さくなっているように感じたが、評議員(地域の方々)のみなさんからは、高い評価を得ることができたことはとてもよかった。これからも継続していきたい。
学校関係者評価者から(年度末)
学校は「5つのき」や校内研修など、児童を中心に据えた取り組みを頑張ってくれている。また、「あいさつ」や「はきもの」などの生活習慣を大切にすることが家庭にも広がっていることは、地域に住むものとしてうれしい限りである。ただ、「もくもく清掃」や「学校群」などの取り組みは、まだまだ改善する余地があるように思う。今年度の取り組みを生かして、来年度もっと学校の取り組みが深まっていくことを期待している。